

令和元年6月27日 00436号

編集者:佐藤寿春

北見武道通信

北見市幸町8丁目4-4(佐藤整骨院内)

NPO 法人北見市武道振興協会事務局発行

直通:090-5986-0839

代表:0157-22-2212 Fax:0157-23-0581

URL <http://www.kitamibudokan.org/>

satou.toshiharu@navy.plala.or.jp

第24回北見市総合武道祭



ニュースレター【事務局情報】第24回北見市総合武道祭開催【東西ちびっ子相撲の様子①】

6月15日(土)快晴に恵まれ第24回北見市総合武道祭が9時30分より開催されました。研修会も盛り込んだ「東西ちびっ子相撲大会」が開かれ、金銀銅のメダルをかけた個人戦が始まると、観客より可愛い子供たちのふんどし姿に声援が送られていました。

武道振興協会事務所の花シリーズ 「エソツツジ」

高山のれき地や草地に生え、生育環境で5cm~30cmの高さながら花は大きめ3~4cmの濃桃色を沢山咲かせてくれ高山の女王といわれています。今年も地植えのエソツツジが綺麗に咲き美しさに魅了されています。〈渋谷〉



連載「武道宝鑑」第22弾 剣術極意(千葉周作遺稿『剣法秘訣』より)剣術修行心得(13回目)

他流試合に帯のかねという教えあり、甚だ面白き意味あり、例えば双方とも立合いの場に至り、目と目を見合わせ居るうちに、此の方未熟にては、我が為さんとする所、必ず目に顯るるものゆえ、向う明らかならば悟らることあり、左様の右帯の矩というて、我が目の付け所をかえ、相手の帯の所眼を付ければ、向うそれに迷いて悟り得ぬものなり。その時不意に我が思う所を打ち突けば、敵に勝つという意にて、大いに面白き所あり、心得居てよきことなり。稽古中向うの切先、向こうの拳、此の二つの目付は、常々忘れるべからず、打ち突きの出る所、切先と拳より外にはなし、此の所を防がねば、向こう自由を働きて、六ヶ敷きのなり。例えば、酒樽などの呑口のぬけて流れ出るものを、外にて如何様に防ぐとも、中々・・・つづく